

周囲の人に助けられ松本理論を理解・
実践された方の手記。

「真の医療に巡り合えた事に感謝(リウマチ性多発筋
痛症・ヘルペス手記)」 田中由美子 59歳

2015年10月31日

1. 発症と治療開始

平成26年1月下旬より、左足首が赤く腫れ、痛みが日を迫るほどに広がりました。主治医を受診すると、「足首に細菌が入った」との診断で、ファロム錠を処方されました。トマトの腐ったような赤みと腫脹が続き、再受診した結果、蜂巣炎とのことでした。ペントシリンの点滴を6日間受け、引き続きファロム錠を処方されました。あまりの痛さに、夜、氷で冷やしましたが、微熱が出始め再受診しました。今度は「糖尿病の疑いあり」との見立てで、血液検査を受けました。しかし異常はありませんでした(CRPは1.4でした)

2月中旬、総合病院の整形外科を受診しました。症状は益々ひどくなりました。レントゲン検査では骨に異常はなく、ロキソニンとレパミピドを7日分処方されましたが症状が軽減されず、原因はいまだ不明でした。足首がかなり腫れているため靴が入らず、靴の踵を踏んで足を引きずって歩く状態でした。寝室も2階から1階に移し、トイレの近くの居間で就寝していました。ベッドを使用していました。

2月28日の受診。血液検査を受けましたが、リウマチ反応はありませんでした(検査結果は口頭でのみ聞きました)。引き続きロキソニンとレパミピド14日分を処方されました。医師は「様子を見る」とのことでしたが、原因が分からず不安でした。その後、右足の親指、中指、右足首にも同じ症状が現れました。

3月17日の受診。痛む箇所が増えていることを伝えました。レントゲンと血液検査の結果「リウマチ反応は出ていないが、症状が同じだからリウマチの薬を飲みましょう。こういうケースはそこそこあり、そのうちにリウマチ反応が出てきます。完治はしません。強い薬を一生飲み続けなければいけませんが、薬のコントロールをしっかりとすれば怖くありません」と言われました。「完治しない」という言葉に強いショックを感じました。ふと切除して治る病気を羨ま

しく感じました。プレドニン5mg朝1回服用が追加となりました。ステロイド剤には副作用があり、躊躇しましたが飲み始めました。

4月7日の受診。ステロイド剤を飲み始めても劇的に痛みがなくなるわけではなく、飲まないよりはましな程度でした。ロキソニンを飲んでいたせいか、身体が冷えました。「痛み止めは体温を下げる」とどこかで聞いた覚えがありました。何となく調子が悪く、自分の身体ではないような違和感がありました。今まで病氣らしい病氣をしたこともなく、薬もサプリメントもほとんど飲まない生活を送り、健康診断もほとんど受けたことがありませんでした。疼痛箇所は、両足首、両足の親指、中指、小指となりました。かなり腫脹、汚い赤みを帯びていました。

新たにメトトレキサード2mg（抗癌剤）を5回分（週1回）処方され、どんどん薬が増えていきました。癌でもないのに抗癌剤を飲む事、そして効果は二ヵ月経過しないと分からないと言われた事に、「冗談じゃない！」と思いましたが、「飲むしかないのか」と思い飲み始めました。

2回目を飲んだ頃から、とうとう私の身体が悲鳴を上げました。薬に頼る人為的な生活はものすごく違和感があり、うまく表現できないが、「何かが違う、本当ではない、自分の身体ではない」という漠然とした焦燥感に襲われました。身体がどんどん壊れてゆく、こんなに多量の薬を飲むことも初めての経験でした。

2. さと子さんとの再会

そうしたときに頭に浮かんだのが、次男の同級生のお母さんである“さと子さん”のことでした。風の噂で「リウマチを患って、大阪の病院に通院している」と聞いていたので、彼女に相談してみようとお宅（近所）を訪れました。「私もリウマチを患った」と話すと驚かれて、「何であなたがリウマチに？どんな強いストレスがあったの？」と聞かれましたが、私の方が知りたいぐらいでした。事情を説明すると、毅然とした口調で「リウマチは治るんだよ！すぐに大阪の松本医院のブログを見て受診して」と言われました。健康保険に該当しない医療費の自己負担があること、松本医院の先生の理論やリウマチの方の手記も読んでから来院した方が良いことを教えてくれました。それを聞き、早速論文を読んできましたが、ちんぷんかんぷんで、私のお粗末な脳みそでは、今の自分の切ない状況が精一杯で理解出来ませんでした。

夫の都合もあるので、色々考えた結果、4日後の土曜日に受診することに決めました。さと子さんにそのことを告げると、松本医院に行く前に鍼とお灸の予約をするように勧められ、予約をしました。（このさと子の存在が、私を医原病から救ってくれたのです。彼女は、思慮深く、洞察力があり、聡明な方です。）そして、金曜日の夜、夜行バスに乗り、大阪へ向かいました。

3. 松本医院受診

夜行バスは、地獄でした。狭いバスの中で、痛みとこわばりに9時間耐えながらやっと京都駅に到着しました。下車する時は足が動かず、夫に助けをもらって、やっとの思いで降りました。京都駅前の長い横断歩道は、青のうちに渡りきれず、夫に引っ張ってもらおう有様でした。歩くこともままならなくなった自分の身体に、改めて落ち込みました。

5月17日、9時前に松本医院に到着しました。受付をすませ、鍼、灸の施術を受けました。自宅でのお灸の仕方の説明も受けました。その後、副院長先生に診ていただくも、疲労困憊でほとんど寝ていなかったため、先生の間診に頓珍漢な答えをして、ひんしゆくをかいました。そして決定的なミスをしました。「自分にはストレスなんてない」と答えてしまったのです。大馬鹿野郎でした。私は、「嫌なことも良いことも、ずっと続かない」と考えていたので、「嫌なことがあっても気にする必要ない」と思っていました。次男がこの春に大学院を卒業し、めでたく就職が出来て、全ての子ども(3人)が社会人となり、親業も終了し、肩の荷が下り本当に幸せでした。

しかし私は、自覚していない強いストレスを抱えていたようです。当時の私は、ストレスから解放され、副腎皮質ホルモンのステロイドの分泌が正常になることで、免疫システムとヘルペスウイルスが戦い始めたなんて知る由もありませんでした。副院長は、「勉強しなさい」と強い口調でおっしゃいました。本当に恥ずかしい限りです。尿と血液の検査を受けました。病名は、「膠原病、リウマチ性多発筋痛症、ヘルペス」と告げられ、漢方薬、紫雲膏、入浴剤、ベルクスロンを処方されました。もぐさと薬草パックも購入しました。この日は、本当に大変な一日でした。

4. 治療開始

漢方薬を作り、お灸を開始しました。ところが漢方浴に問題が発生しました。温泉地なので、お風呂は外湯(地区所有)に入りに行っており、我が家には、狭いシャワー室のようなものがかろうじてあるだけだったので、たらいを購入して入浴しなければならなかったのです。動かない足で、熱くて重い鍋をたらいまで運ぶのが大変でした。鍼灸院を探すのも苦労しました。(身体の負担を考えると近くが良かったのですが、一つめに行った施術所で松本医院の治療法を説明しても、私の日本語が下手だったのか、なかなか伝わらなく次を探すことになりました。二つめの施術所は、余計な施術をしようとされた為、パスしました。三つめの施術所は、鍼灸師さんに松本医院の治療法を説明すると、すぐに松本医院のホームページを見て、「理論は分かりませんが、血流をよくし免疫力を上げる鍼を施術しましょう。」と快諾してくださいました。ただ、家から遠いのが難点でした。

免疫を上げる為には、松本医院のメニューを忠実に実行しなければならない。薬の服用、鍼、灸、漢方浴を続けました。2ヶ月間のステロイドと抗癌剤の服用で、本来人間が勝手にいじってはいけない免疫を人為的に抑制してしまっ

いました。それもお金を払って自分の身体を壊してしまうなんて……。深く後悔して落ち込みました。身体に対して本当に申し訳ないことをしました。「これからリバウンドが始まるのだ」と覚悟しました。松本先生は、「あんたが自分で治すんやでー」とエールを送ってくださいましたが、症状はどんどんひどくなっていき、リバウンドと分っていてもため息が出ました。さと子さんにも励まされ、彼女の言葉が心にしみました。“免疫の怒り”が“痛み”、“その報い”が“リバウンド”なのだと思います。さと子さんとメールのやり取りを始めました。症状、悩みも含め、色々なことをアドバイスしてもらいました。彼女は、私の命の恩人です。そしてかけがえのない戦友となりました。

5. 症状と日常

5月末、左手首が腫れ、痛み始めました。呆然とし、「とうとう手に来たか」と思いました。手首は疼痛、腫脹はありましたが、あまり赤くはなりません。ただ、力が入らず、どんどん痛くなっていきました。家事がままたりませんでした。動きがとても鈍くなってきました。何をするにも時間がかかり、痛みのレベルが高くなったように思いました。歩くのも難儀になりました。しかし、仕事場に行くと、家にいる時よりは歩けました。「とにかく来年3月末までは働いてくれ」と言われました。

6月、おできが顔、背中、尻に出来ました。痛くはないのでほっておきました。「身体の毒を出しているんだから」と自分勝手に解釈をしていました。仕事柄、虫刺されが多く、松本先生に中黄膏を出してもらいました。「痛いのは、戦っているからや、バンバンお灸をきなさい」と叱咤激励が飛びました。お灸の箇所もどんどん増え、時間がかかるようになりました。午前中はとても眠くて、仮眠をとらないと仕事に行けません。仕事は午後からでしたが、物を落とす、こぼす、ぶつかる、つまずく、よろける、食器もかなり割るといいう有様でした。仕事から帰るとクタクタで、食事をして、お灸をして、片づけをして、11時ごろ就寝しました。眠い、眠いと思いながら朝5時半朝湯(温泉)に行きました。これはずっと続いている習慣です。朝湯に入ることによって身体が楽になり動くようになるのです。温泉の洗い場で腰を下ろすと、立ち上がるのが大変で一苦労でした。1時間近く入浴しました。湯船の中では、そこそこ歩けるのが嬉しかったです。温泉にいつまで入浴できるのだろうかと思いました。温泉まで車で3分、運転もかなりきつくなってきました。愛車はマニュアルの軽トラだったので、左足でクラッチを切るのが苦痛でした、左手首も痛く、握力がなく、ギアチェンジがままならなくなりました。そこで、車を夫のオートマチック車に変えましたが、軽トラの時は座高が高くて乗り降りがしやすかったのに、普通車の座席は低く、降り下りが辛くなりました。しかし、ここは車なしでは生活が出来ない標高600m、北信濃の田舎なのです。

ベッドの上にエアーマットを置き65cmの高さにしました。椅子も低いものは辛かったです。椅子の上に毛布をたたんで高くしました。トイレの便座も

5cm高くしました。夜のトイレが地獄でした。痛みとこわばりで、足が固まり一歩がなかなか出ませんでした。覚悟を決めて行かなければなりませんでした。便座を高くしても立ち上がるのが一苦勞でした。トイレの前にベッドを置きたいと思いましたがそれは無理でした。この動かなくなった身体とどう付き合えば良いのかと頭を悩ませました。家事も辛うじて何とかぎりぎり出来る状態でした。

7、8月と痛む箇所がまた増えました。増えた箇所は左膝、両足裏、両踵です。しかし、両足首の痛みは、5月の痛みが10とすると4から5になりました。色も肌色になってきました。こわばりはまだ残ってしまいました。足の指も幾分良くなりましたが、日によって赤み、腫れを帯びました。お灸をする箇所は、益々増えました。鎖骨あたりに痒みが出ました。赤いぶつぶつで、「アトピーかな？」と思いました。搔いていたら血が出たので中黄膏を塗りました。鍼の先生から「こんなひどいリウマチ患者は見たことがない。よく我慢できるね。普通なら入院だよ。」と言われるほどになりました。私もこんなに長く続くレベルの高い痛みは、これまでに経験したことがありませんでした。リバウンドの激痛は想像をはるかに超えていたのです。さと子さんに、「免疫が身体を守るために、戦っていると思わなきゃやっつけられない」と笑われました。左手首が痛く、こわばるため、漢方薬を薬草パックに入れる時によくこぼしてしまいました。もぐさを縫(よ)るのも大変になりました。踵、足の裏が痛いため、家の中では柔らかいスリッパを履いて歩いていました。重い物がますます持てなくなりました。買い物は夫に行ってもらうようになりました。外で人に会った時、この姿を見られ、病気のことを話すのが苦痛でした。本当のことを話すのも、ごまかすのもパスしたい気持ちでした。改めて普通に歩ける事、普通に生活できる事、普通と言う事がとても、とても幸せなのだ気づきました。家の雑用も、猫3匹の世話も、夫に大きく負担がかかるようになりました。それでも夫は涼しげな顔で手伝ってくれました。本当にありがたいと思いました。夫は時々とんでもないものを買ってくることもありましたが、買い物が上手になりました。“人に何かを頼む”ということはとても大変なことだと思いました。いかに適切な言葉で、わかりやすく丁寧に伝えるかが、とても重要になると思いました。夫は世界にも類を見ない不器用な人！私が夫に「あなた(夫)なしでは生きていけない」と言うと、夫は「薄気味悪い」と、苦笑しました。私は猫を抱き上げることも出来なくなりました。夜中、猫が私の布団の上で喧嘩をしたとき、私は悶絶しました。腫れた足の指を甘咬みしてきたときには、思わず悲鳴を上げました。

9月は体調がとても良かったです。相変わらずの痛みはありましたが、痛み慣れたからか、痛みと身体の調子がこれまでと違って感じるような感覚を覚えました。痛みはありましたが体調が良かったのです。なんと、身体が若返ったような、とても不思議な気がしました。何よりありがたかったのは、身体を動かしさえしなければ痛くないので、よく眠れたということです。眠っている間

は、痛みから開放されるので、ずっと寝ていたいと思いました。どんなに痛くても、布団に入ればすぐ熟睡できました。痛みからの解放は、涙が出るほど嬉しかったです。(相変わらず夜中のトイレは地獄でしたが・・・) 痛みも日によって違い、特に足裏はぴりぴりしました。時々太い木綿針を刺されたような痛みも感じました。「ヘルペス恐るべし!」と思いました。左膝がかなり腫脹しました。左手首はズキンズキンと規則正しい痛みが起こりました。細かい作業が出来ず、ますます握力が低下しました。

10月下旬、たらいを使つての漢方浴が困難となりました。湯がすぐに冷めてしまい15分と持たなくなつたのです。先生に相談すると、「そこらへんに住んでいる人は風呂がないのか?」と聞かれました。「5割の家はないと思う。新築する時は、お風呂を作るが、ほとんどの人は温泉を利用している。」と言うと、先生は信じられない様子でした。(因みに、さと子さん宅にはお風呂が有ります)

先生から、「いくら遠いと言っても、そろそろ来院しなさい」と言われました。一人では大阪に行けないので、夫に仕事の調整を凶ってもらいました。11月にやっと2回目の来院をして、血液検査を受けました。11月1日初めて院長先生にお会いしました。(初診は副院長でした) 電話だけのやり取りだけで、院長先生とは面識がなかったため緊張しました。今回も夜行バスでくたくたの状態でしたが、「先生の間診に正確に返答しなければ」と努力しました。日々の生活に精一杯で本当に余裕がありませんでしたが、先生は「免疫を上げる努力を怠らないこと、自分で治すという強い意志を持つことが必要だ」と迫力ある声で話して下さいました。

12月、右膝も痛み出し、両膝と両足裏、両踵の痛みの為、一步踏み出すと激痛が走る状態でした。歩くのが最高に辛くなりました。歩き方は、ブリキのロボットの様でした。遅く、不安定な歩き方になりました。12月中旬、左膝の痛みで夜中に目が覚めるようになりました。今まではどんなに痛くても朝まで眠れましたが、こんな事は初めてでした。寝られないのでお灸をしました。

朝湯に行ったとき、私の入っている温泉は、皮膚病、火傷、切り傷に効く温泉だということに気づきました。お灸の火ぶくれが早く治つたのです。左手が利かないため、包丁でよく手を切りました。調理の際の火傷も早く治りました。身体の芯から温まる、そんな温泉のありがたみをつくづく感じました。

12月末に次男が帰省しました。松本理論は生物I、IIを履修していないと理解が難しいとのことでした。次男に説明してもらおう。次男は、ジックリ読んだ後、説明を始めました。隠された激しく重い心のストレスが生じると、自分を守る為、心の異物と戦えるようにアドレナリンや副腎皮質ホルモンのステロイドホルモンを分泌し、免疫を抑え続けるのです。その間に、ヘルペスウイルスが神経細胞で増殖する。ストレスから解放されるとステロイドの分泌が正常になり、免疫システムが回復し、増殖したヘルペスウイルスを見つけて神経細胞で戦いを始めると、神経に炎症が起こり痛みとなる。白血球の中のリンパ球のBリンパ球が、ヘルペスウイルスに対し抗体のIgGを作り、IgGが捕ま

えたヘルペスウイルスを好中球や大食細胞が食べて殺す。化学物質との戦いが残っている。化学物質を異物と認識した免疫はI g Gを作るが、殺すことは出来ない所以免疫を上げ、I g GをI g Eに変え、抗体の交換（クラススイッチ）をして排泄しようとする。それがアトピーであり、アトピーが治ると膠原病が完治する。そして免疫を上げるには漢方薬、鍼、灸、漢方浴が不可欠。私の理解の程度を知るため時々質問をされました。答えられないと「頭が悪い」と呟きました。「松本理論は明瞭、明確、すごい理論だ」と口数の少ない次男が驚嘆していました。説明をしてくれた次男に感謝しました。さと子さんに話すと、「理論を理解すると回復も早まるよ」と言われました。今まで「どうせ自分には分からない」と逃げていた自分を恥ずかしく思いました。

1・2・3月、肉体的にも精神的にも最悪でした。あまりの切なさに、ふと「膝下から足を切断したい」と思いました。靴べらの様な義足で走る選手を羨ましいと言ったら、夫が「あんたらしい考え方だね」と笑いました。「冬眠したい」と思いました。3月末、仕事を辞めました。腹をくくって治療に専念する覚悟をしました。

4月4日の来院時、懲りずに夜行バスに乗りました。健康な人でもきついの、私のような患者が使う交通手段ではないと、身体が教えてくれました。「今回で最後にしよう」と思いました。血液検査を受け、眼科の検査もしていただきました。眼の方は問題ありませんでした。松本先生に症状を話しましたが、なぜか、さと子さんの話で盛り上がりました。彼女がいなければ、今の私は絶対になく思いました。「自分で治すんやでー」と言う先生の言葉が、今までとは違う響きに聞こえました。帰路は、北陸新幹線を利用し、今までより2時間近くも早く帰宅することが出来ました。これで日帰りの受診も可能となりました。仕事を辞め、生活ががらりと変わりました。家事も時間こそかかるが余裕が出てきました。全てに余裕が出来きました。昼寝もゆっくり出来ましたし、夜の8時には就寝できました。お灸もゆっくりあせらず丁寧に出来ました。今までとは違い夢のようでした。家での生活は、とても穏やかで平和でした。痛みの箇所は、その後増えませんでした。「左手首で止まっている！」「右手首は痛くはない！」「最大の痛みからは解放された」そんな風のように思う。両足首は、多少のこわばりがあるものの、元の足首になりました。足の指もほぼ元の指になりました。痛む箇所も、レベルも、日によって微妙に変化しましたが、去年とはまったく違いました。

5月、たらいによる漢方浴を再開しました。

6月末、膝の痛みが7割ほど取れていることに気づきました。しかしこわばりは強く、硬く、重く、動かしづらかったです。

7月、夫やお風呂の仲間から「歩き方が良くなった」と言われるようになりました。薄紙を丁寧に一枚一枚剥がす様に、良くなっている気配を感じました。

8月、両踵、両足裏、左手首も膝同様痛みが軽くなっている。時々痛みのレベルが上がりましたが、すぐに軽くなりました。その事をさと子さんに話し、

2人でプチリバウンドと名づけました。左手首のプチリバウンドの回数が多く、こわばりもそこそこありました。痛みのレベルもかなり低くなってきている気がしました。8月の中旬、漢方薬を煎じているガラス鍋を割ってしまいました。割れた鍋の持ち手が右足に当たり、ザックリと切れてしまいました。かなりの傷で、普通なら外科に受診し、縫って貰ったほうが良い状態でしたが、麻酔薬や投薬が心配なので様子を見ました。夜になり、やっと血が止まり、中黄膏を塗布しました。朝湯に入るとまた血が出ました。3日間そんな状態が続き、ようやく血が止まりました。夫が、「昔の武士は、刀傷で破傷風を起こさないように、お灸で治したんだ」と教えてくれました。「膿んでしまうと大変だから、傷の周りにもお灸をしてみたら」と助言をされました。お灸はお手の物なので早速やり始めました。すると、どんどん傷が治っていき、1週間ほどで完治しました。お灸の威力を目の当たりにし、夫婦で改めて驚嘆しました。

9月2日受診、今回は東京にいる長男の車で通院しました。朝2時半に出発し、7時半には松本医院に到着しました。痛みが軽くなっていたので、血液検査の結果が楽しみでした。先生の間診を受けると、「顔つきが変わったなー」と開口一番おっしゃいました。私が「週ごとに薄紙を剥がすようにゆっくり回復していています」と答えると、先生が「あんたが頑張ったんや」と言葉をかけてくださいました。身体も心も楽になりました。

10月、最もひどい時のレベルを10とすると、痛みは両踵3、両足裏0.5、両膝1、左手首1、こわばりは両膝4、左手首3となっていました。膝がかなり曲がるようになりました。

6. おわりに

化学物質の摂取は、現代の人工的な生活の中、避けて通れません。食事で摂取する動植物は、添加物、化学成分が混入し、農薬、化学肥料漬けで、抗生物質やホルモン剤を多量に投与されたものばかりです。実際、化学物質の入っていない食品、日用品は、ほとんどないのではないのでしょうか？環境も汚染され、自然に近い食物を摂取することは至難です。米も野菜も果物も農薬漬けで虫も食べないものばかりです。私は、野菜、卵等は地元の産直マーケットや、有機農法で無農薬栽培を行っている障害者施設で購入しています。発酵食品の積極的な摂取と、シンプルな食生活を心掛けています。昔の日本の食事に近いと思います。さと子さんのご主人が、いわな、きのこ(なんと松茸も)、山菜、果物等天然の旬の食材を届けてくれて、とても感謝しています。

私は、絶対的に正しい生命活動である免疫の働きを薬で抑制しました。免疫は神の領域です。病気を自分で治すことの意味と、治療法を松本先生から学びました。自分の力で治すと言う事は、治す為に自分自身の知恵、工夫、努力、忍耐、根気、継続、勉強 et c を必要とするという事です。持てる力をフルロットルで前進することです。常識も覆されました。まさにイノベーションです。幸運にも私は、松本医学の治療を受ける事が出来ました。世の中には、沢山の

リウマチ性多発筋痛症の患者がおられます。松本医院にたどり着ける人、たどり着けない人、通院できる人、通院できない人 et c (いくらインターネットが普及しても真の医療を探すのは迷路みたいなものです)。真の医療に巡り合えたことに感謝！私を支えてくれる夫、そしてさと子さん並びにそのご主人、親戚、友人、知人の存在に感謝！松本先生、感謝、感謝です。大きな、大きな喜びを感じます。

血液検査結果

	14. 5. 17	14. 11. 1	15. 4. 4	15. 9. 2
CRP [mg/dL]	1. 36	1. 64	1. 52	0. 35
血沈 [mm/1hour]	77	70	71	40
白血球 [$\times 100/\mu\text{L}$]	45	47	50	41
好中球 (%)	76. 5	73. 6	76	71. 1
リンパ球 (%)	18	22. 2	18. 4	25
VZV EIA 価	25. 3	21. 9	25. 1	23. 6